



## 1 テーマ設定

SDGs12の目標として「つくる責任、つかう責任」を達成するためには、企業や消費者のリサイクルを奨励し、食品ロスを減らすことが重要である。世界人口の生存基本需要はまだ満足されていないのに、一方では依然として深刻な浪費現象が存在している。食品ロスは食べ残しだけではなく、生産から流通過程までを考える必要がある。非常に難しい問題であり、近年ますます広く注目されている。

世界の食料廃棄量は年間約13億トンで、消費のために生産された食料のおよそ3分の1を廃棄している。食料を大量に生産、輸入しているのに、その多くを捨てている現実がある。小売業者と消費者のレベルから見れば、世界の一人当たりの食品の無駄使い量を半減させることは、生産とサプライチェーンの効率を高めることに役立つ。また、食料安全を強化し、我々の経済システムが資源をより効果的に利用できるようにすることも大切である。

消費はさまざまな側面を含んでいて、少し変えるだけで社会全体に大きな影響を与えることができる。また企業は、個人がより持続可能な生活習慣を持つことを支援し、動機づけることができる。そこで今回我々は「食品ロス」を投資テーマに設定し、食品ロス問題を解決する企業20銘柄のポートフォリオを作成した。

## 2 スクリーニング

我々はSDGsに関連する企業を選定するにあたってスクリーニングという手法をとった。

第一スクリーニングではまず東証に上場している3714社+日経アジア300の319社を調べ、そこから我々のテーマに沿う企業71社まで絞り込んだ。

第二スクリーニングでは絞り込んだ71社に対し4つのテーマ、経営理念と投資のテーマの適合性、事業内容と投資のテーマの適合性、株式優待、就活生目線による5段階評価を行いその合計点で絞り込んだ。また、企業の差別化を図る事業内容と投資テーマの適合性には×1.5倍をし46社に絞った。

第三スクリーニングでは絞り込んだ46社に対しPER、配当利回り、ROEを利用し安全性、成長性がどの程度なのかを5段階評価で得点化し合計点の高い上位20社に絞り込んだ。



## 3 投資企業の紹介

我々はスクリーニングを通して、投資対象企業20社を選定した。

左記の図では、スクリーニングでの得点が高かった順に並べてある。

業種は食料品、飲料、化学、水産、電気機器、サービス、医薬品、小売、卸売、電気、ガスに分かれている。

当初の我々の予想では食品業界が多くを占めるだろうと思っていたが、その通りとなった。しかし、食品業界以外にも電気機器や化学という食品ロスとは一見関係ないと思われていた企業もあったことから食品ロスがそれほど多くの企業にも関連していることがわかった。

順位	銘柄名	コード	業種	上場
1	エスビー食品	2805	食料品	東証2
1	大倉工業	4221	化学	東証1
3	昭和産業株式会社	2004	食料品	東証1
3	日本水産	1332	水産	東証1
5	明治ホールディングス株式会社	2269	食料品	東証1
6	雷印がみルック株式会社	2270	食料品	東証1
7	森永乳業	2264	食料品	東証1
7	NEC	6701	電気機器	東証1
9	セブンのアイホールディングス株式会社	3382	小売	東証1
9	株式会社ニチレイ	2871	食料品	東証1
11	フジッコ	2908	食料品	東証1
11	博覧堂	2433	サービス	東証1
11	日本製粉株式会社	2001	食料品	東証1
11	大塚ホールディングス株式会社	4578	医薬品	東証1
11	アルビス	7475	小売、卸売	東証1
16	不二製油グループ本社株式会社	2607	食料品	東証1
16	株式会社セキスイハイム	2267	食料品	東証1
16	サンヨー食品インターナショナル株式会社	2587	飲料	東証1
19	IMV東洋	8198	小売	東証2
19	東京ガス	9531	電気、ガス	東証1

図4-1 β値：ポートフォリオ対日経

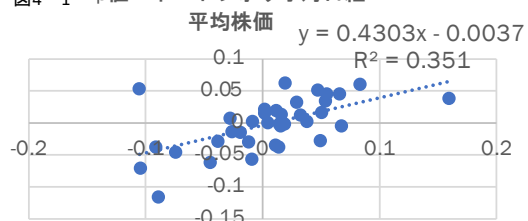


図4-2

	収益率	標準偏差	シャープレシオ
ポートフォリオ	-0.0011	0.039	-0.027
日経平均株価	0.0059	0.054	0.10

特に我々の投資は長期的な目線で投資を行っている。現時点での結果が良くなくても今後の展開によって良くなることは十分に考えられる。このような観点から我々のポートフォリオは全てが悪いとは言えない。

## 4 投資家へのアピール

我々は投資した企業がどのような成長性をもたらすのかを過去3年間の株価データを用いて「Yahoo!ファイナンス」によって調査した。比較調査したのは我々のポートフォリオと日経平均株価とTOPIXである。右の図4-1はポートフォリオと日経平均株価のβ値を比較したものである。β値とは市場平均の値動きに対してどのくらい連動しているのかを表しておりβ値が1ということは値動きが全く同じということを示している。我々のβ値は0.43であり、これは市場の値動きが上昇してもあまり影響を受けず、リスクとしてはローリスクな結果となった。図4-2は収益率、標準偏差、シャープレシオを比較した図である。標準偏差は統計学におけるバラツキのことを表しておりこの数値が高いほどリスクが大きい。シャープレシオは標準偏差1単位あたりにおけるリターンを表す指標であり、この数値が高いほどリスクに対するリターンが大きいことを表す。

結果としては我々のポートフォリオは日経平均株価に対してローリスクローリターンの結果となった。同様の調査をTOPIXでも行ったが結果は変わらなかった。図や数値上で見れば我々のポートフォリオは失敗のように思えるがあまり悲観することはないと感じている。このコロナの影響で多くの企業が不振のこの世の中で大きなリターンを獲得しようとするのは、まず無理である。一方、一部の銘柄では、コロナバブルが起きており株価はどんどんと高騰している。しかし、コロナ後のことを考えると、株価が一気に急落することも考えられる。そのためのために、あえてローリスクローリターンのという結果は間違っていないと考える。

## 5 まとめ

世界的な問題を提起しそこから問題解決に取り組んでいる企業選定、更には仮想ではあるが我々が投資をするといった初めての経験をたくさん行った。最初は右も左もわからず大変だったが、先生が、様々な指導をくださったおかげもあり、何とか我々の力で大きなプロジェクトを完走をすることができた。我々は3年生である。ここで培った経験や力は4年生になって必ず活かせることになるだろう。

(※本研究は第21回日経STOCKリーグにレポート提出している。引用等は紙面の関係上掲載することができなかった。JIU学会には報告書としてレポートを提出する)